

第3章 館山市の歴史文化の特性

館山市の歴史の流れを一貫して規定してきたのは、房総半島の先端という地理的特徴です。海に囲まれたこの地域では、原始、古代から中近世、近代に至るまで、陸路を通じての交流だけではなく、海を通じた対岸との交流により、歴史が展開してきました。

これまで第1章で館山市の歴史的背景、第2章で各類型の文化財・歴史文化遺産の概要と特徴を概観してきました。本章は、1. 各時代の歴史文化、2. 市内10地区の歴史文化を踏まえ、3で館山市の歴史文化の特性をまとめました。

1. 各時代の歴史文化

第1章で述べた館山市の歴史的背景と、第2章で挙げた文化財・歴史文化遺産の対応関係を概観すると、下表のとおりとなります。文化財・歴史文化遺産を個別に捉えるのではなく、歴史的背景とともに捉えることで、各時代の歴史文化の特徴が見えてきます。

時代	できごと	文化財・歴史文化遺産
原始 古代	沼サング層が陸地化する 海食洞穴で人が生活 水稲耕作がはじまる 横穴群がつくられる 祭祀が行われ、土製模造品がつくられる 海食洞穴を墓として使用する 安房国成立、安房国分寺建立 都にアワビを上納する 観音信仰の広がり 安房の武士団があらわれる	縄文海進、沼サング層、段丘・砂丘列 鉈切洞穴、イルカの骨、黒曜石 石包丁、萱野遺跡 横穴墓 つとるば遺跡、東田遺跡、土製模造品 大寺山洞穴 安房神社、国分寺跡、六所神社、地名 平城京出土木簡、国司神社 崖観音、那古観音、洲崎明神 船形城跡、神余城跡
中世	源頼朝が安房に渡る 鎌倉の仏教文化が伝わる 里見義実が安房に現れる 里見義通が安房を統一 里見義康が館山城に移り城下町を建設 里見忠義が倉吉に移封	洲崎神社、頼朝伝説 小網寺、やぐら、鎌倉寺社領 稲村城跡 鶴谷八幡宮、那古寺、手力雄神社 館山城跡、城下町、高の島湊 慈恩院、館山城跡、大巖院
近世	元禄地震で津波被害、土地が隆起 北条藩や館山藩の支配が行われる 百姓一揆が起こる	元禄隆起段丘、那古寺・手力雄神社再建 陣屋跡、藩士・藩領の古文書 万石騒動、七人様

	『南総里見八犬伝』が出版される 白土採掘がはじまる 異国船に備え沿岸警備をかためる 江戸へ鮮魚を供給する 漁業争論が起こる 巡礼が一般にも広まる	館山市立博物館コレクション、役行者窟 白土坑 海防陣屋跡、砲台跡、御固絵図 干鰯、万祝、押送船 裁許絵図、干鰯場 国札観音、出羽三山、富士講、道標
近現代	明治維新により新藩が成立する 館山と東京を結ぶ汽船が就航する 転地療養の地となる 文人が来房、青木繁が「海の幸」を制作 安房北条駅まで鉄道開通、洲崎灯台点灯 関東大震災による災害と復興 東京湾要塞、館山海軍航空隊等の設置 館山市の成立	長尾藩土、寄子万霊塔 別荘地、景勝地、海水浴 健康地、養育院安房分院、館山病院 小谷家住宅、布良 観光地、観光案内書、近代産業 沖ノ島、高ノ島、町並み、震災碑 赤山地下壕跡、砲台跡、各種地下壕 鏡ヶ浦、南房総国定公園、平砂浦砂防

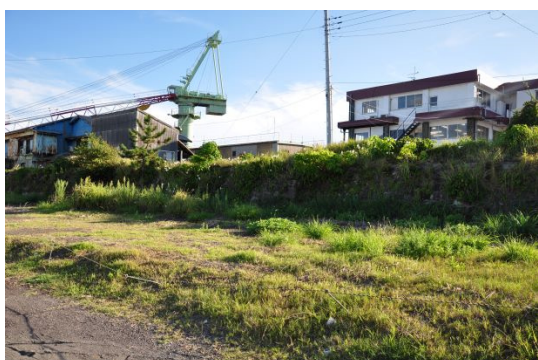
2. 市内 10 地区（旧町村）の歴史文化

館山市は、明治 22 年（1889）に成立した旧町村の枠組を元にした 10 地区に分かれています。各地区はそれぞれ異なる自然的・地理的環境を有しており、館山市全体の歴史文化を捉えるためには、各地区の歴史文化の特徴を踏まえた上で、総体として把握する必要があります。ここでは各地区の歴史文化を概観します。



船形 ～海に育まれた港町～

船形という地名は、背後の堂山が船を伏せたかたちに似ていることに由来するとされています。昔から人々は漁業を生業として、崖の観音に豊漁安全を祈願して暮らしてきました。江戸時代は、押送舟を使った鮮魚輸送が盛んになり、自給自足の漁村から物流の港町へと大きく発展しました。また、幕末には平岡道弘が根岸に陣屋を構えましたが、明治元年（1868）に領地を奉還し廃藩となっています。明治時代以降も、汽船の就航などにより村はますます発展し、大正7年（1918）には那古船形駅が開業しています。現在も船形漁港を中心に多くの人々が暮らしています。



安政の築堤



大福寺
磨崖十一面
観音菩薩像

那古 ～観音さまの門前町～

那古地区は、明治初期まで安房国平郡に属した那古・小原・亀ヶ原・正木からなる地域です。小原に縄文時代の石器が出土する稲原貝塚があり、小原や正木に古墳時代の横穴墓が残っています。正木と亀ヶ原は奈良時代から平安時代に安房国の政治的な中心地であった国府の一部と考えられる地です。養老元年（717）に開基し、古くから観音さまへの信仰を集めた那古寺の周辺は、参詣客でにぎわう門前町として発展しました。江戸時代以降は、船で人や物が行き交う港町としての役割もありました。明治以降は、観光や商業で栄えた館山湾北部の中心地でした。



稲原貝塚出土の黒曜石が刺さったイルカの骨（複製、原品は慶應義塾大学所蔵）



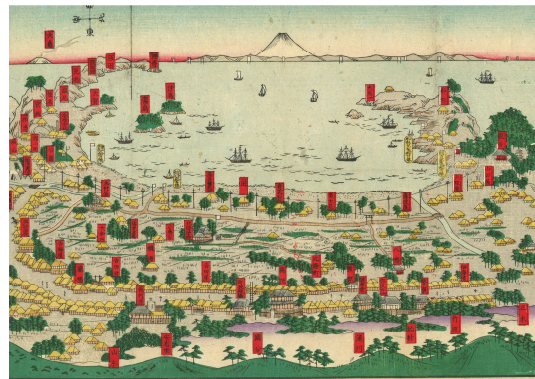
那古寺観音堂

北条 ～近代安房の中心地～

北条地区は、平久里川と汐入川、館山湾に囲まれた館山平野に位置しています。高井に古墳時代の遺跡があり、また鎌倉時代に鶴谷八幡宮が府中（南房総市）から八幡に遷座したと伝えられます。里見氏が居城を館山に移すと、海に面した北条・長須賀は城下町として発展し、その後は北条に諸藩の陣屋が置かれました。近代になると、郡役所・病院・銀行などが建ち並ぶ安房の中心地となり、さらに汽船・鉄道などの広域交通の発達によって観光地という性格も強く帯びていきます。安房の中心地・玄関口として多くの人々や物資・情報が集いにぎわいました。



安房国総社鶴谷八幡宮



房州鏡浦略図

館山 ～里見氏の城下町～

館山湾南岸に位置し、南部の丘陵との間に集落が展開しています。沼や上真倉に縄文時代以降の遺跡があり、古くから人々が暮らしていたことが分かります。近世初期には里見義康が館山城を居城とし、周辺の城下町整備を進めました。里見家が国替えとなり、城が破却された後も、旧城下町は地域の中心的な町場や、江戸東京への物資流通の拠点として機能しました。古くから海上交通で栄えた当地区は、明治11年（1878）に東京との間に汽船が就航したことにより、さらにその性格を強くしました。また昭和になると、宮城・笠名・大賀を中心に、館山海軍航空隊や洲ノ埼海軍航空隊などの軍事施設が設置されました。



館山城跡と館山港



館山海軍航空隊掩体壕

西岬 ～海の信仰が息づく地～

西岬は安房の西端に位置しており、東京湾に岬のように突き出していることから明治22年（1889）に名づけられた地名です。浜田に縄文時代の遺跡である鉤切洞穴があります。江戸時代後期に洲崎が海防の要所とされ、大砲を設置した台場と遠見番所が置かれました。洲崎神社や鉤切神社、波切不動など海の信仰を集めた寺社が多く、西川名の厳島神社の湯立神事など、海上安全と大漁を祈願する行事が現在も行われています。



海南刀切神社の鉤切岩



洲崎神社の自然林

神戸 ～神話と伝説の里～

神戸という地名は、古代律令制において安房神社の封戸（諸税を納めた家）があったことに由来します。巴川に沿って、大神宮や竜岡、犬石などに縄文時代から古墳時代の遺跡が集中し、古くから開発された地域であったことが分かります。また、安房神社や洲宮神社は古墳時代から祭祀の場でした。茂名の里芋祭りや藤原・竜岡の獅子神楽など、神戸地区では特色ある神事が伝承されています。また、太平洋戦争中は平砂浦が軍の演習地となり、佐野に館山海軍砲術学校が設置されました。



安房神社



藤原の獅子神楽

富崎 ～漁村文化と「海の幸」～

富崎という地名は、天富命が上陸した岬であるという安房開拓神話に基づき、明治22年（1889）に相浜村と布良村が合併した際に付けられた村名です。太平洋に面した山際にある両村は耕地が少なく、海の恵みを生活の糧としてきました。また、東京湾の出入口に位置することから、江戸時代以降は首都防衛の役割も担っていました。明治時代には、地域有力者の強い指導力により近代化が推し進められていきました。漁村として海の恵みを享受しながらも、海への畏れと常に背中合わせで暮らしが紡がれてきました。そして、その生活に惹かれた文化人も多く訪れました。



寺崎武男画「布良崎神社の天富命渡航の図」(布良崎神社蔵)



安房節の碑

豊房 ～豊かな水と暮らす人々～

豊房という地名は、安房で最も豊かな村になるようにと願って、明治22年（1889）の合併時に付けられた村名です。館山平野南方の程よく開けた谷に位置する豊房地区は、水が豊富で豊かな稔りある村々が展開しています。縄文時代から古墳時代の遺跡が多くみられ、平安時代の末に神余氏という武士団が成長しています。中世は鎌倉ともつながりのある豊かな土地でした。多くの用水が作られ、古い時代から小さな谷を開いて人々が生活をしてきた地域です。



小網寺本堂



溪谷にある畑区の農業用水

館野 ～古代安房の中心地～

館野は肥沃な館山平野の中央部に位置し、現在も農業が盛んです。弥生時代から古墳時代の遺跡が分布しており、古くから集落があったことがわかります。奈良時代に安房国分寺が置かれ、平安時代に伴直家主という人物が朝廷から孝行を褒賞されています。鎌倉時代末に北条得宗家の施設が萱野に作られ、平久里川湊を中心とした経済活動が行われたと考えられます。戦国時代になると、里見氏によって安房支配の拠点稲村城が築かれ、内乱の舞台となりました。江戸時代に万石騒動が起こり、犠牲となった3人の名主は現在も三義民とたたえられています。



萱野遺跡出土北条家三麟紋瓦



三義民の墓

九重 ～鎌倉との交流と豪族の里～

九重という地名は、9つの村が合併したことに由来しています。館山平野の最奥部に位置し、古墳時代に山の中腹に数多くの横穴墓が作られました。江田や竹原の平野に律令時代の条里遺構が確認されており、古くから開発されてきたことがわかります。中世は小さな谷を開発した有力な豪族が活動しており、安東を中心に水岡や寶貝などに鎌倉から室町時代のやぐらや石仏・石塔・仏像が残されています。恵み豊かな土地で古代から大規模な土地開発が行われ、有力な武士が拠点とした地域です。



千手院やぐら



蓮蔵寺の石仏

3. 歴史文化の特性

以上に述べた各時代および各地区の歴史文化について、「海」と「交流」をキーワードとすると、神津島から運ばれた黒曜石、海食洞穴、平城京への干しアワビ上納木簡、鎌倉の仏教文化・やぐら、里見氏と北条氏の抗争、江戸への鮮魚供給、幕末の海防拠点、東京湾要塞、近代の健康地・保養地・観光地、海水浴、汽船就航、震災と津波など、海を通じてヒトやモノが行き来していた館山の地域特性が見えてきます。

これらを分類した8つのストーリーを設定した上で、館山市の歴史文化の特性を1つに絞り込みました。歴史文化の特性を整理するにあたり、館山市立博物館による40年以上の調査・研究の蓄積や文化財関連団体による多方面の活動成果、市民アンケートで収集したキーワード等を参考にしました。

なお第8章では、8つのストーリーに対応する関連文化財群を掲げ、保存活用のための課題・方針・取組を記載しています。

(1) 原始・古代館山における神々への祈りと祭り

洞窟遺跡や祭祀遺跡、安房神社と忌部氏の開拓神話など古代からの神々への信仰に加え、現代に受け継がれたミノコドリやかっこ舞など、神にささげる祭りも盛んにおこなわれています。

(2) 館山での仏教文化の広がり

国分寺や那古寺などの古代寺院、小網寺などに残る仏像彫刻、やぐらなどにみられる鎌倉仏教の影響、観音信仰などの巡礼に関する文化財が伝わります。

(3) 里見氏 10代 170年の軌跡

房総半島を170年にわたり支配した里見氏に関わる寺社や城跡、伝承などが市内各地に残されています。里見氏が整備した城下町が現在の館山市の礎となっています。

(4) 館山と江戸・東京との交流

海上交通の拠点として、江戸・東京との人・モノの行き来があり、江戸の人々からの奉納物が市内の寺社に残されています。近代以降は汽船や鉄道によりさらに交流が盛んになりました。

(5) 館山の海的生活文化と信仰

海を生活の場とした人々の漁撈用具をはじめとした海の生活に関わる民俗文化財、万祝や絵馬、船霊などの海に関する信仰や文化がのこされています。

（６）館山の災害からの復興

地震による土地の隆起や元禄地震による津波被害、関東大震災とその後の復興によるまちづくりは現在の館山市の町並み形成につながっています。

（７）軍事都市館山 首都防衛と戦争遺跡

幕末の東京湾警備や旧陸軍の東京湾要塞、旧海軍の航空隊など、館山市は軍事都市としての性格を強くもちました。市内には多くの戦争遺跡がのこされています。

（８）別荘地・保養地・観光地としての館山

明治 10 年代以降、汽船の就航により保養地・療養地として栄え、多くの海水浴客が訪れました。また、政治家や文化人の別荘地としても注目され、東京との人脈形成が図られました。

以上の 8 つのストーリーを踏まえた結果、館山市の歴史文化の特性は次のように表現することができます。

歴史文化の特性

館山の海を通じたヒト・モノ・文化の交流史



時代	地形・環境	統治・政治	信仰・祭礼	社会・生活	交通・経済	産業・生産	芸術・文化	人物
原始	縄文海進・沼サンゴ 海食洞穴				黒曜石の普及 緑泥片岩の石棒	漁撈活動		
弥生						水稻耕作		
古代	古墳		古代祭祀 安房神社と神郡	海食洞穴墓・横穴墓		水稲耕作		
奈良		安房国成立 安房国分寺造営				桑里制		
平安		武士団の成立	観音信仰 洲崎明神			鮑上納木簡	地方仏の造像	
鎌倉		北条得宗家の瓦	鎌倉仏教				鎌倉様式の仏像・法具	源頼朝
中世	室町			やぐら				
(戦国)		里見氏の安房支配 北条氏の侵攻						里見義実
安土桃山				館山城と城下町	高の島湊			里見義康
近世	江戸	元禄地震と大津波 小藩と旗本の支配 海岸警備	地域巡礼 富士信仰	万石騒動・七人様 万祝の流行	押送船	網漁の発達	江戸彫物職人 八大伝の刊行 地域彫物職人 芸術家の来訪	
明治		明治新藩	山車祭礼		汽船就航	水産業の近代化		福原有信 万里小路通房
近現代				転地療養 別荘地化	汽船就航	白土産業		青木繁 渋沢栄一
大正	関東大震災			震災復興	鉄道開通 洲崎灯台点灯	海水浴場	酪農の普及	
昭和		東京湾要塞 軍事施設の建設 館山市の成立		軍事都市化		観光地化	軍需産業	
				平砂浦砂防		南房総国定公園	市立博物館設置	

第4章 文化財・歴史文化遺産の把握調査の現状

1. 既往調査の概要

(1) 国による調査・報告書

近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書や名勝に関する総合調査など 3 冊が刊行されており、当市の今後の調査における指針となります。

(2) 千葉県による調査・報告書

昭和 43 年（1968）以来、千葉県教育委員会により、歴史・民俗・言語・遺跡・建築など 36 冊にわたる県内の分布・個別調査が行われています。当市の文化財を把握する上で貴重な先行調査です。

(3) 館山市による調査・報告書

館山市史、古文書・仏像・遺跡などの調査報告書、市民向けに指定文化財の情報や館山市の歴史を分かりやすく紹介した書籍など 11 冊が刊行されています。

(4) 発掘調査報告書

国史跡の稲村城跡、県史跡の鉾切洞穴・安房神社洞窟・安房国分寺跡、市史跡の館山城跡・大寺山洞穴のほか、長須賀条里制遺跡・萱野遺跡・沖ノ島遺跡・加賀名遺跡など館山市内の主要遺跡の発掘調査報告が 55 冊刊行されています。

(5) 大学等研究機関による調査・報告書

民俗や歴史地理・言語などについて 5 大学の研究室が、市内相浜・布良・神余・浜田・坂田・畑などの集落調査を実施し、その成果を 9 冊にわたって報告しています。この他、沖ノ島で観察できる動植物を紹介した図書 3 冊があります。

(6) 文化財関係団体による報告書等

館山市文化財保護協会・里見氏稲村城跡を保存する会・NPO 法人南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム（現 NPO 法人安房文化遺産フォーラム）などの市民団体による長年の個人研究報告が 68 冊にわたって積み重ねられ、文化財の所在情報も豊富です。

(7) 地域で編纂された地誌

明治時代以降に編纂された館山市に関する地誌のほか、市内個別地区の地域誌・史、個人による地誌研究の成果など 21 冊があります。地域の文化財情報の紹介も行われています。

2. 館山市立博物館及び旧千葉県立安房博物館による研究蓄積

(1) 館山市立博物館の展示図録等

昭和 59 年（1984）以来、館山市を対象にした歴史・民俗の展覧会が続けられており、個別テーマの各種展覧会や市内旧町村を対象にした地域史の展覧会は、64 冊の展示図録になっているほか、館報を通じて市内の歴史・民俗などの情報を分かりやすく、市民へ発信しています。

(2) 千葉県立安房博物館の展示図録等

昭和 48 年（1973）から閉館する平成 20 年（2008）まで、千葉県立安房博物館が行ってきた海洋民俗を中心とする展覧会の展示図録・研究紀要や、漁撈用具の調査報告書など、博物館の個性をいかした 148 冊の成果物が刊行されています。

3. 把握調査の実施状況

類型			把握調査の実施状況
有形文化財	建造物		○
	美術工芸品	絵画	△
		彫刻	○
		工芸品	△
		書跡・典籍	△
		古文書	△
		考古資料	△
		歴史資料	△
無形文化財			△
民俗文化財	有形の民俗文化財		△
	無形の民俗文化財		△
記念物	遺跡		△
	名勝地		×
	動物・植物・地質鉱物		△
文化的景観			△
伝統的建造物群			△
文化財の保存技術			×
歴史文化遺産			△

（○：概ね調査済 △：さらに調査が必要 ×：未調査）

有形文化財のうち建造物と美術工芸品（彫刻）については概ね把握調査が実施できていますが、それ以外の文化財・歴史文化遺産については、さらなる把握調査が必要です。特に、記念物のうち名勝地と文化財の保存技術については、把握調査が行われていません。

第5章 文化財・歴史文化遺産の保存・活用に関する将来像

1. 本計画における将来像

市内には、館山の歴史文化を特徴づける各時代の多様で豊かな文化財や歴史文化遺産が伝えられています。地域の人々にとって、暮らしに根付いた身近な文化財・歴史文化遺産がある一方、市民や来訪者に知られていないものも多くあります。市内に伝わる文化財・歴史文化遺産を知り、その価値を正しく理解するため、地域一体となって守り、伝えていくため、さらに、先人から受け継いだ貴重な文化財・歴史文化遺産を後世に確実に伝えていくために、本地域計画における将来像を、以下のように設定します。

将来像

歴史文化をまちづくりに活かす街 館山

～ふるさと館山フィールドミュージアムの実現～

歴史文化はその地域の独自性を示すもので、他の地域との差別化を図る貴重な魅力となります。また、歴史文化は地域住民の生活が蓄積された財産であり、まちづくりを進める上でも重視する必要があります。本計画により、歴史文化を館山のまちづくりに活かし、地域に対する誇りと愛着を持つことにつなげるというメッセージを発信します。

上記の将来像の実現に向け、以下の3つの基本方針に基づき、館山市の文化財が確実に保存・継承・活用されるよう、環境や体制づくりを進めていきます。また、将来像の実現により、館山市総合計画の将来都市像や基本目標の達成を目指します。

3つの基本方針

①館山の文化財・
歴史文化遺産を
学び、知る
〔調査・研究〕

②館山の文化財・
歴史文化遺産を
守り、伝える
〔保存・継承〕

③館山の文化財・
歴史文化遺産を
活かし、発信する
〔活用・普及〕

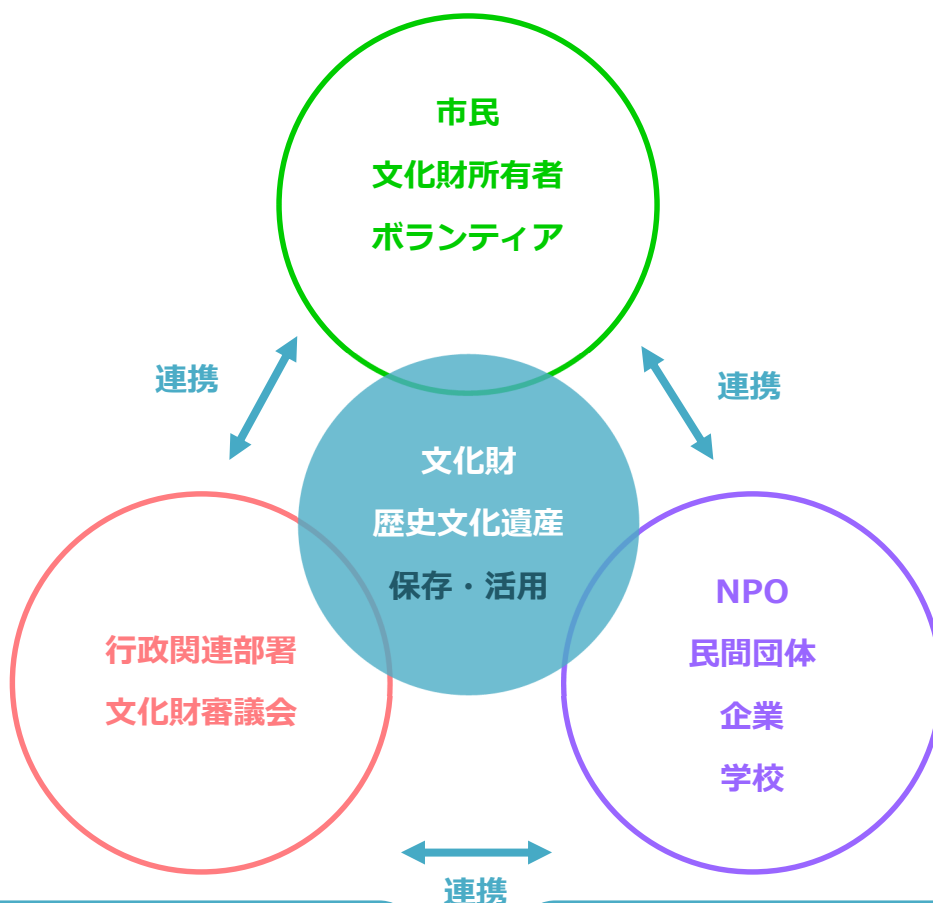
この将来像を実現することにより、第5次館山市総合計画の将来像である「みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山」へとつなげていきます。

具体的には、歴史文化遺産の保存・活用の推進のため、国や千葉県の指導を受け、館山市文化財

所管部署をはじめとする行政、NPOなどの関係団体、市民や文化財所有者が連携する「ふるさと館山フィールドミュージアム」の実現を目指します。今後は、下記にあげた各団体の連携からなる、ふるさと館山フィールドミュージアム推進協議会（仮称）の組織化に向け、推進体制の整備を図ります。

ふるさと館山フィールドミュージアムのイメージ

【推進体制】



拠点となる施設

- ・ 館山市立博物館（核）
- ・ 渚の博物館（サテライト）
- ・ 赤山地下壕跡（サテライト）
- ・ 青木繁「海の幸」記念館（サテライト）

拠点施設を補完する施設

- ・ コミュニティセンター
- ・ 各地区公民館
- ・ 各地区の文化財・歴史文化遺産

拠点のネットワーク化

周遊サイン・説明看板の整備

既存オンラインページの充実

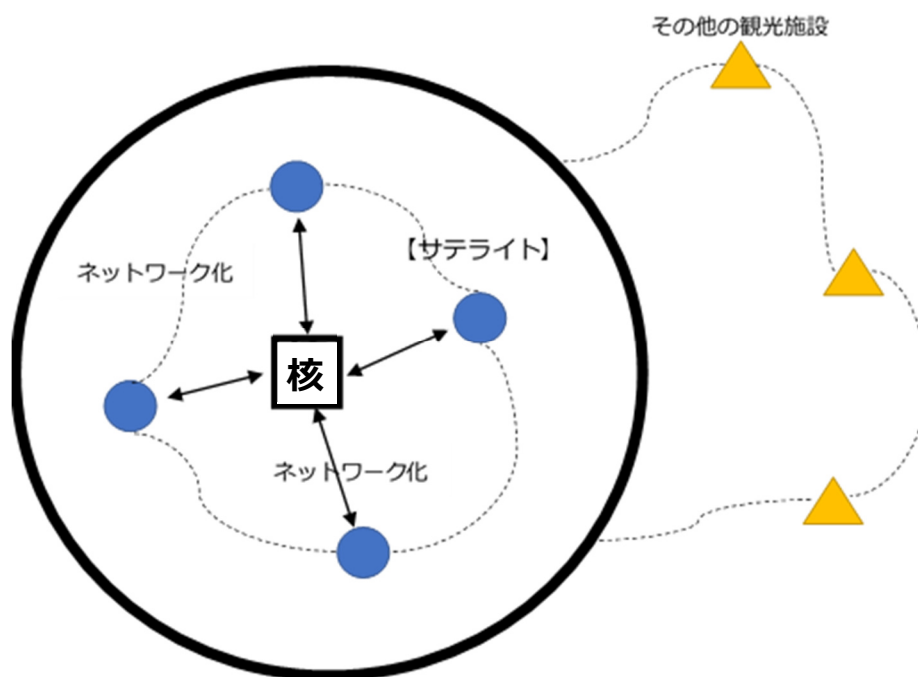
- ・ たてやまフィールドミュージアム
※市立博物館のデジタルコンテンツであり「ふるさと館山フィールドミュージアム」とは異なります。
- ・ 南房総花海街道

将来像の実現を推進する体制として、館山市立博物館を核、館山海軍航空隊赤山地下壕跡・小谷家住宅（青木繁「海の幸」記念館）などの施設をサテライトとし、市内の文化財・歴史文化遺産をネットワーク化して、館山の歴史文化を一体的に保存・活用できる枠組みを考えます。

この背景に、平成 15 年 3 月策定の報告書『平和・学習拠点形成によるまちづくりの推進に関する調査研究－館山市における戦争遺跡保存活用方策に関する調査研究－』で、戦争遺跡を組み入れた都市づくりの目標像として掲げられた「地域まろごとオープンエアミュージアム（フィールド博物館）・館山歴史公園都市」があります。この目標像は、戦争遺跡に限らず、建造物や石造物、遺跡や記念物など屋外の文化財や歴史文化遺産にも当てはめて考えることができます。

また、地域の歴史文化に関心のある市民自らが“学芸員”としての役割を担うことで、文化財・歴史文化遺産関係人口の増加を図ります。これにより、館山市全域をフィールドミュージアムとして展開すること＝ふるさと館山フィールドミュージアムの実現を目指します。

【概念モデル】



館山市立博物館



館山市立博物館展示室



渚の博物館



渚の博物館展示室



八犬伝博物館



八犬伝博物館展示室



赤山地下壕跡



赤山地下壕跡展示室



青木繁「海の幸」記念館(小谷家住宅)



青木繁「海の幸」記念館(小谷家住宅)展示室

《参考①》

『第5次館山市総合計画』計画期間：令和8年度～令和17年度

●まちの将来像 みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山

●リーディングプロジェクト（前期基本計画）

1：たてやまの経済発展を目指す

2：たてやまに愛着をもつ人をふやす

3：安全・安心なたてやまで人をはぐくむ

4：社会の変化に適応可能な行政基盤をつくる

●基本目標3：教育・文化 第4節：歴史の継承と文化の振興

有形無形の文化財の発掘・保存とともに、歴史・文化資源を活用したシビックプライドの醸成、地域独自の観光・学習の場を創出します。

《参考②》

『館山市景観計画』令和元年11月～

●景観まちづくりの目標 海と暮らす いくつものまちなみ 館山

《参考③》

『館山湾振興ビジョン』平成21年3月～

●基本目標 千（船）客万来の交流拠点・館山湾

《参考④》

『千葉県文化財保存活用大綱』令和2年10月～

●将来像 県民一人一人が文化財の魅力を知り、守り、次世代につなげ、活用することで、豊かな県民文化を育む。